

## 二人の手紙

壺井繁治・壺井栄 獄中往復書簡集

昭和五年－昭和九年

壺井栄  
50回忌  
記念出版

作家・壺井栄になる前の、若き夫婦の200通を超える手紙は  
80年の時を過ぎても、今なお初々しい



装丁・長田年伸  
装画・平岡瞳  
解説・佐久間文子

『二十四の瞳』などを残した壺井栄が、詩人であり雑誌『戦旗』などで活動した夫・壺井繁治が投獄された数年の間かわした獄中往復書簡を、栄の50回忌を迎えた今年初めて一冊にまとめられました。

栄が「作家・壺井栄」となる以前の、また、30代の夫婦のやりとりが収められた200通を超える手紙は、80年の時を過ぎた今も初々しく、楽しい夫婦の姿を読むことができます。

すでに表現者として世に出ている繁治が、私信の中でも自分や自分の置かれた状況を客観視しているのに対し、栄の手紙には精神状態がそのまま反映されて、アップダウンが激しいことこのうえない。繁治ならずとも振り回されてしまう。

覚えてたの左翼用語で「『御無沙汰絶対反対!』異議なし」と書く栄は愛らしいが、生活の苦しさに絶望してたびたび厭世的になり、夫に「ヒステリーを起こして怒鳴っているのが、耳元にきこえるような気が」とすると笑わせたり、「地獄からの通信のようだ」と嘆息させたりもする。

(佐久間文子「解説」より抜粋)

番線印	注文数	
	冊	二人の手紙 壺井繁治・壺井栄 獄中往復書簡集 昭和五年－九年 2016年6月23日取次搬入 定価1,800円+税 404ページ A5判 上製 ISBN 978-4-9906105-5-5

株式会社 JRC 経由ですべての取次へ出荷が可能です。返品は長期にお受けいたします。

JRC 電話 03-5283-2230 / FAX 03-3294-2177

ご注文 FAX (編集室屋上) 03-4231-9207

電話 03-4231-9206  
e-mail info@oku-jo.com